

介護・医療施設の入居者安全 確保と介護職員の働き方改革

日立システムズが見守りシステム

日立システムズは、状態が自動記録されるのほど、IoT技術を活用して、介護施設や医療施設入居者の安全確保と介護職員の働き方改革を支援する「福祉の森 見守りシステム」を発売した。

赤外線センサーやマツト型の生体センサーなどを通じて、入居者の寝返りなどの体動情報や脈拍などの生体情報を取得していく。見守りシステムは、スタッフルームに備え付けのPCやタブレット上に部屋ごとの入居者の状態を分かりやすく表示する。入居者の

状態が自動記録されるため、入居者に対するケア状況の迅速な確認や記録システムへの入力を短縮できる。日立システムズは今回発売する福祉の森見守りシステムとIoTインフラの整備、作業補助スツツなどの機器調達、システム設計、運営支援、保守などを組み合わせ、入居者の安全確保と介護職員の働き方改革を実現。今後は、蓄積したデータとAIなどを組み合わせ健康科学の分野までの拡大を視野に入れ、介護施設や医療施設を支援する製品、サービスを積極的に拡販し、21年度の売上げを目指す。

「福祉の森 見守りシステム」の画面イメージ

【脈拍・呼吸】
生体センサーからの情報を表示

【状態表示】
各センサー(部屋ごと設定可能)からの情報を基に利用者の状態を判断

赤	呼吸上昇 離床予測 起上検知
青	覚醒(在床)
灰	睡眠不在

※「色」と「状態」の組み合わせは設定変更可能